



一般社団法人 日本LD学会

会報 第77号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒320-0043 宇都宮市桜 3-1-6 吉田ビル 2F
TEL.028-666-0533 <http://www.soc.nii.ac.jp/jald/>

主な記事

<特集>

- ・被災地の皆さまへのメッセージ
- ・最近の施策〈文部科学省〉
〈厚生労働省〉

<連続講座>

今、改めて「連携」を問う

<ご案内>

大会・公開シンポジウムについて



「手と手をつないで」

宮城教育大学特別支援教育講座

渡辺 徹

3月11日東北関東地方を襲った大震災は、3月25日現在で死亡1万人、安否不明1万9千人、避難生活25万人を超す未曾有の大惨事となりました。一瞬のうちに家族、家屋等すべてを奪い去った津波の猛威にもただただ声を失うばかりです。この会報が会員に届く5月末頃には、さらにその被害の全容が明らかになるでしょう。ともかく学会員とご家族が無事であることを心から祈ります。震災の復興と福島原発事故の収束を含めて、2012年予定の宮城大会がどうなるのか、正直のところ大変不安ですが、何とか開催にむけて準備を進めたいと決意を新たにしているところです。

こうした状況で一番気になるのは、被災地で避難所生活を強いられている子どもたちの存在です。「先生、避難所でうちの子はたびたびパニックを起こしています。周囲に迷惑をかけるので、親戚を頼ってさらに遠くへ避難することになりました」と知人からの電話。激変した環境の中におかれる多くの子どもたちは、不安に怯え、ストレスを溜めます。とりわけ障害のある子どもとその

家族は周囲に気兼ねしながらの生活になります。誰もが支援を必要とする場所では、無理なお願いかもしれませんが、こんなときこそ他人を思いやる言葉「いいよいいよ」「どうぞどうぞ」がほしいものです。今回の震災では阪神淡路大震災の経験から、宮城にNGOを中心にした「遊びの広場」が何箇所か開設されました。ここは子どもたちが気持ちを開放し、心を癒す重要な場になります。できればどの避難所にも用意されるべきでしょう。

震災後の危機的状況は、人間や社会のあるべき姿について様々な問い直しを迫ります。被災した子どもたちが自主的に避難所のボランティアをしている例は胸を打ちます。支援が必要とされる人々に自分は何ができるか。それは物的な支援だけではありません。ほんのささやかな行動や言葉がけだけでもいいのです。「手と手をつないで」決して一人ではない、寄り添い支えてくれる人がいるという実感、これを与えてくれる支援を強く願います。なぜならそのことが被災者のこれから長くて厳しい復興の原動力になるからです。